

1959 ▶ 1963

昭和34年—昭和38年

前身の「武藤工業所」が誕生

創業者の武藤貞英が、誠組解散後、就職した村上建材店から独立、武藤工業所を創立したのは、1959（昭和34）年。皇太子ご成婚の日、4月10日より1カ月前の3月10日だった。長男の貞は同年3月1日で13歳になったばかりだった。武藤貞英の略歴を語れば、1918（大正7）年、佐賀県に生まれ、旧制小倉中学（小倉高校）から旧制五高（熊本大学）へ進学。五高では文科代表総務で活躍した故あって中途退学、陸軍士官学校卒。戦後、福岡市で建設業「誠組」を立ち上げ、建設畑を経験した。なぜ武藤貞英が九州で最初にシーリング業務を手掛けたかなどの経緯は判明していない。しかし大局的にみれば、貞英は先見の明があったと言える。この年、西日本を代表する歓楽街中洲のビル化が始まった。建築家・菊竹清訓氏設計の料飲ビル「蟻ビル」（依頼主・川浪秀子さん）が誕生。同ビル壁面のクズ鉄彫刻「蟻」（彫刻家柳原義達制作）は日本初と言われ、話題となった。

59年当時は、油性コーキングが国産化されたばかり。コーキング（caulking）とは元来、洗面台や窓回りなどの接ぎ目を、シリコン（silicone = 有機珪素化合物の重合体の総称。耐熱性、耐薬品性、

撥水性、電気絶縁性に優れる）など柔軟で防水性の高い材料で埋めることをいう。大型現場において、窓回りの防水材として使われたのが油性コーキング材だった。工事は、ビルの窓外につるされた手動式仮設ゴンドラによる施工で大変な重労働だった。翌60年、ウェザーバンシーラー（2成分形ポリサルファイドシーリング材）の輸入が始まり、大型現場のガラス回りに使われるようになった。国産油性コーキング材から弾性シーリング材へ少しずつ移行していった。

1961（昭和36）年、西鉄福岡（天神）駅の高架化と西鉄本社の福岡ビルが落成。福岡ビルは間組施工。シーリング工事は武藤工業所などが受注。窓ガラス回りにウェザーバンシーラーを使用。残念ながら2005年3月20日発生の福岡沖地震の被害によって改修され、61年、武藤工業所が施工した当時のシーリング材は姿を消した。

62年、博多祇園山笠が、これまでの伝統を破り、那珂川を渡って、福岡入りする「集団山みせ」が始

まった。北九州市では若戸大橋が開通。東京五輪を2年後に控え、日本列島は胎動を始めていた。63年には5市合併による北九州市が誕生。新博多駅が開業した。新博多駅は2011年春誕生、九州新幹線が全通する。一方で、三井三池炭鉱三川鉱で炭じん爆発事故が発生、458人が死ぬ悲劇が起きた。

業界では、63年にメーカー11社により日本コーキング協会（現日本シーリング材工業会 = 以下日シ材工）が設立され、1成分系シリコン系シーリング材、2成分系ポリサルファイド系シーリング材の国内生産が開始され、翌年にはブチルゴム系シーリング材などが国産化された。また建築物もカーテンウォール工法【荷重を柱・梁（はり）に持たせた壁工法】が数多く取り入れられるようになり、ガラスやサッシに弾性シーリング材が多数使われるようになった。顧客先も大手ゼネコンに加え、ガラス工事店、サッシメーカー等の取引が急増した。

年	ムトウの動向
1959年 (昭和34年)	・3月10日 武藤工業所創立 創業者 武藤貞英（当時41歳）
1960年 (昭和35年)	・ウェザーバンシーラーを初めて使用する
1961年 (昭和36年)	・大型現場で2成分形ポリサルファイド系シーリング材（ウェザーバンシーラー）を施工する。ガラス回りにウェザーバンシーラーを大量に使用
1962年 (昭和37年)	・加熱注入型目地充填剤「フジシール」（昭和化工）による防水工事を施工する
1963年 (昭和38年)	・シリコン系の撥水性吹き付け材「エバータイト」（昭和化工）による外壁防水工事を施工する



名称 福岡ビル
竣工 1961年12月
間組 (福岡市中央区天神1-11-17)



福岡ビルのウェザーバンシーリング施工